

新刊書紹介

フザリウム

—分類と生態・防除—

駒田 旦・小川 奎・
青木孝之／編集
発行：全国農村教育協会



本書には付録がついている。「主要分類体系間における *Fusarium* 属の種の対応関係」というタイトルで、A 全判(90cm×60cm)のポスター仕様の巨大な表である。その中身はといえば Wollenweber & Reinking, Snyder & Hansen, Messian & Cassini, Booth, Gerlach & Nirenberg, Nelson, Toussoun & Marasas, Burgess et al., Nirenberg & O'Donnell, Leslie & Summerell の各分類体系と本書の分類学的立場における種の対応関係が明らかにされている。この表こそが世界の(むろん日本も含めて)フザリウム菌分類の現状を最も端的に反映しており、本書出版の最大の成果のひとつだといえよう。

この本には前書として「作物のフザリウム病」(松尾卓見・駒田旦・松田明／編集, 1980年)がある。前書の時代には Snyder & Hansen 分類体系が世界で広く受け入れられていた。種概念を広く捉え、フザリウム菌を9種に絞り込んだこの分類法のおかげで同定が楽になり、生態研究が大きく進歩したことは、よく知られる。

ところが、Snyder & Hansen の死後、種の概念を狭く捉えるドイツ学派を中心に分類体系に大変革が起き、100 を軽く越す種に細分化さ

れ、新たな分類体系の構築に向けて個々の菌種の細かい分類学的見直しが続けられているのが現状である。巨大な対応表の必要性はここにある。

第1章 *Fusarium* 菌の分類と同定は、本書の核といえる章で、分類の現状と本書の分類学的立場を明確にしたうえで、細密図を駆使して分類・同定について詳述している。

第2章作物のフザリウム病では作物に発生するフザリウム病を俯瞰的に解説している。本章第3節では、近年国際間の移動によって重要性が増している植物検疫の現状を解説している。

第3章 *Fusarium* 菌の生態と作物のフザリウム病では、生態・腐生・伝染経路・発生環境を解説するとともに線虫との複合病についても解説している。

第4章作物のフザリウム病の病態生理では感染・発病・萎凋機構が明らかになる。

第5章 *Fusarium* 菌の産生する毒性物質では、DON等のかび毒が大きな社会問題になっているなか、フザリウム菌の産生する毒性物質全般について解説されている。

第6章ヒト・昆虫のフザリウム病では、植物病原菌フザリウムが、実はヒトにも重大な真菌症を引き起こしていることが明らかにされる。

第7章作物のフザリウム病の防除では、近年世界的に問題になっている健全種苗の生産について述べられ、微生物防除についても新知見が示されている。

第8章作物のフザリウム病の実験法では、今なお重要性の高い選択培地について新知見を交えて解説し、DNA解析、遺伝的標識、*nit*変異株の利用等新しい手法についても紹介している。

各論は57のフザリウム病を多数のカラー写真とともに解説している。

●定価31,500円(税込)、発行：全国農村教育協会
(TEL03-3839-9160, FAX03-3833-1665,
メール hon@zennokyo.co.jp)。